

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	臨床心理学(Clinical Psychology)	授業コード	E033701
担当教員名	高橋 淳一郎		
配当学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	産業カウンセラーの資格取得を目指す学生は必ず履修してください。 ピアヘルパーの資格取得を目指す学生は必ず履修してください。		
受講心得	遅刻、講義中の携帯電話の使用、おしゃべり、無断入室など、他の学生に迷惑のかかる行為は禁止です。大学生として最低限のマナーは守って履修してください。		
教科書	カウンセリング／心理療法の4つの源流と比較 W.トライデン&J.ミットン(著) 酒井汀(訳) 北大路書房		
参考文献及び指定図書	発達臨床心理学ハンドブック 大石史博・西川隆蔵・中村義行(編) ナカニシヤ出版 発達臨床心理学の最前線 杉原一昭(監修) 教育出版 よくわかる 臨床心理学 下山晴彦(編) ミネルヴァ書房		
関連科目	心理学、発達心理学、カウンセリング、心理アセスメント、精神保健学		

授業の目的	<p>私たちが成長発達を続ける中で、人は様々な壁にぶつかります。その中で人は悩み、苦しみながら問題を乗り越えることで一回りも二回りも大きく成長していくわけです。しかし、すべての人がすべての問題を簡単に乗り越えられるわけもなく、また、必ずしも自分ひとりで乗り越えなければならぬものでもありません。この講義では、実際に私たちの人生においてどのような壁が待ち構えているのか、そしてそれに対して私たちがどのように立ち向かうことができるのか、またどのような援助ができるのか、といったことの基本となる理論について学びます。</p>
授業の概要	<p>人の心は非常に複雑で、簡単には理解できません。しかし、理解するヒントを得ることはできるかもしれません。この講義ではS.フロイトの精神分析、C.ロジャーズのパーソンセンタードアプローチ、A.エリスの認知行動論、A.ラザルスの多面的アプローチといった臨床心理学の基本的な理論をもとに、人の心とは何だろうということを考えていきます。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：オリエンテーション 「臨床」という言葉の意味から、臨床心理学の目的と意義について考えていきます。	リアクションペーパーの提出
第2週：精神力動的アプローチ① 精神分析という心へのアプローチ法を提唱したS.フロイトについて、その生い立ちと専門家としての活躍など、その人物像について説明をしていきます。	テキストp21～p25 リアクションペーパーの提出
第3週：精神力動的アプローチ② フロイトの考えた心の構造とはどのようなものだったのか、無意識とはどのような概念なのか、一部でユングの理論とも比較しながら我々の心について考えていきます。	補助プリント リアクションペーパーの提出
第4週：精神力動的アプローチ③ フロイトが精神力動的なアプローチを治療としてどのように発展させていったのか、その歴史について概説します。	テキストp26～p33 リアクションペーパーの提出
第5週：精神力動的アプローチ④ リビドーという精神分析独特な概念を用いて、人のパーソナリティとその発達について、フロイトの「リビドー発達論」を中心に概説します。	テキストp34～p50 リアクションペーパーの提出
第6週：精神力動的アプローチ⑤ フロイトは何を心の問題として扱おうとしたのか、フロイトが病理の原因の一つとして考えた「防衛機制」についてお話しします。	補助プリント リアクションペーパーの提出
第7週：パーソン・センタード・アプローチ① C.ロジャーズという人がどのような育ちをし、専門家としてどのように活躍をしたのか、パーソン・センタードという考え方を生んだロジャーズの人物像を解き明かします。	テキストp66～p71 リアクションペーパーの提出
第8週：パーソン・センタード・アプローチ②	

ロジャーズが最終的に「パーソン・センタード」という考え方にたどり着いた背景に何が あったのか、この理論の変遷と発展について考えていきます。	テキストp72～p76 リアクションペーパーの提出	
第9週：パーソン・センタード・アプローチ③ ロジャーズは我々のパーソナリティをどのように捉え、またどのように発達するものと考えたのでしょうか。また、それを踏まえてわれわれが「問題」や「悩み」とするものは何なのか、ロジャーズの考えについて概説していきます。	テキストp77～p89 リアクションペーパーの提出	
第10週：合理情動行動的アプローチ① A.エリスが育った環境と専門家としての歴史などを通して、合理情動行動的アプローチという考え方が生まれてきた背景について考えていきます。同時に、A.ベックが認知的アプローチに到達した歴史についても概説し、2人の専門家の異同について考えます。	テキストp107～p114 リアクションペーパーの提出	
第11週：合理情動行動的アプローチ② エリスがこの理論を提唱するまでにたどり着いた背景は何か、そしてこの理論がどのように発展してきたのか、認知療法を提唱したA.ベックとの異同も含めてお話していきます。	テキストp114～p119 リアクションペーパーの提出	
第12週：合理情動行動的アプローチ③ 認知行動理論におけるパーソナリティの考え方やパーソナリティ発達の考え方、さらにこの理論における問題発生のとらえ方について概説していきます。	テキストp120～p138 リアクションペーパーの提出	
第13週：多面的アプローチ① A.ラザルスという人がどのような成長をしたのか、また専門家としてどのような活躍があったのかなど、ラザルスの生い立ちについてお話しし、ラザルスの臨床家としての歴史を振り返ります。	テキストp161～p165 リアクションペーパーの提出	
第14週：多面的アプローチ② ラザルスが多面的アプローチという理論にたどり着いた背景は何だったのか、また、この理論がどのように発展してきたのか概説します。	テキストp165～p168 リアクションペーパーの提出	
第15週：多面的アプローチ③ 多面的アプローチにおけるパーソナリティの考え方、パーソナリティ発達の考え方、さらに多面的アプローチにおける「問題」のとらえ方と問題解決について概説します。	テキストp169～p180 リアクションペーパーの提出	
第16週：期末試験 これまでの内容について論述形式の試験を実施します。自筆ノートおよび講義内に配布したプリントは持ち込み可とし、試験時間は60分です。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①対人援助の基礎理論について概説できる。
【知識・理解】	②4つの理論における中心人物の生い立ちと理論の発展について説明できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	③精神分析の考え方に従った「人間の心」についての説明ができる。
【思考・判断・創造】	④人間の心の働きと問題行動のつながりについて理解できる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		5点	20点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	30点	5点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	5点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	20点	5点		
(「人間力」について) ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	毎回の講義の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。その内容について点数化し、評価に加えます。評価方法は以下の通りです。 A 講義の内容をよく理解し、振り返りながら自分の考えをしっかりと述べている。 B 講義の内容をよく理解し、振り返ることができる。 C 講義の内容をだいたい理解し、振り返ることができる。 D 講義の内容を一部理解し、振り返ることができる。
発表・その他 (無形成果)	出席点を20点満点とし、1回の欠席ごとに2点を減点する方式で評価に取り入れます。